

薩摩の書画人データベース

山下 廣 幸 (本館 学芸課長)

鹿児島といえば、現在は洋画王国といえるほど、洋画の盛んなところである。これは、明治期における日本の洋画壇に鹿児島出身者が大きな役割を果たしているからであり、黒田清輝、藤島武二、和田英作の三巨匠は良く知られているとおりでである。そして、曾山幸彦、床次正精、有島生馬、東郷青児、海老原喜之助などの名前も挙げる事ができる。

一方、明治以降における日本画は、狩野派や円山四条派の絵師たちが活躍する明治末期までを最後に、それ以降は皆無といってよいほど数少ない。しかし、江戸時代までは、全国的によく知られる絵師がいるかどうかは別にして、伝統的な日本画が連綿と続いていたことはまちがいになく、数多くの絵師が知られている。

それでは、なぜ鹿児島の地に洋画が重点的に根を張ったかということになるが、薩摩は古くから地理的な条件で、たとえば遣唐使船の受入、鉄砲やキリスト教の伝来、そして幕末の島津重豪、斉彬といった開明的な藩主による西洋文化の受入、薩摩藩留学生の派遣など先進的な文明の受容を行ってきた歴史などによるのであろう。その結果として、いち早く西洋文化の産物である洋画が取り入れられたと考えられる。ただし、当時の洋画家といっても、その基礎には日本画があった。黒田清輝は郷土の絵師樋口探月、藤島武二は平山東岳、床次正精は能勢一清に、その手ほどきを受けている。

薩摩における日本画の歴史は、室町時代に始まるといわれ、雪舟に学んだ秋月や楊月などが活躍する。ただ、薩摩に残る古い絵画ということであれば、おそらく鎌倉時代に描かれた仏画ということになり、重要文化財の「八相涅槃図」(坊津町龍巖寺蔵)などが挙げられる。

江戸時代になると狩野派が活躍するようになり、狩野探幽の子探信に学んだ木村探元が出て薩摩画壇に大きな影響を与えている。探元以後はその門人たち、たとえば能勢探龍、押川元春、山路探定などが活躍し、この流派は明治時代まで続くことになる。武の国といわれる薩摩で、漢画系のいかにもかっちりとした、様式美の傾向が強い狩野派の絵がいかにか好まれたかがわかるが、現在に残る作品の数から考えても、このことを肯定できる。また、幕末になってようやく円山四条派の絵師が出現するようになったが、税所文豹、平山東岳などの数人の絵師が知られる程度である。

さらに、薩摩の書壇については、江戸時代に藩庁を中心に御家流が広まっていたが、元禄年間(1688~1703)になると市井の書家も輩出している。寛政年間(1789~1800)には、須田綱伴が出て、須田流と呼ばれる一派をなした。幕末、鮫島白鶴・川口雪篷や琉球の鄭嘉訓らが活躍して、当時の薩摩書風に大きな影響を与えた。また、この時期には、八田知紀・税所敦子ら歌人のかなの書も見ることができる。

ここでは、各時代にどのような絵師や書人が活躍しているかを知る必要性に、筆者自信が常に当面していることから、薩摩画壇や書壇に登場する人々のあらゆる情報をまとめて、簡単に検索できる様に工夫してみた。時代は、室町時代から明治時代にわたっている。

巻末に掲載した参考文献から集めた書人、画人を50音順に並べ、更に各人が使用する雅号からも検索が可能になる様にしてある。また、活躍した時代が一覧できる表も付けた。

書画人データベース

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
1	あつこ 敦子	書	あつこ 税所敦子			文政8年3月	1825
2	あんざん 安山	書	あんざん 安山和尚		慧海	宝暦11年	1761
3	いさい 伊歳	画	ばばい 馬場伊歳	いさい 伊歳, 吟雪斎, 伊春	養純, 伊春, 伊歳	天明3年	1783
4	いつかん 一観	画	うちやま 内山一観	いつかん 一観, 浄雪軒一観, 松泉軒成清	盛爾, 四郎右衛門	文政6年11月9日	1823
5	いっせい 一清	画	のせ 能勢一清	いっせい 一清, 浄川軒一清, 烹雪庵, 静得, かいとくあん 懐徳庵, 黙観, 心斎	泰央, 武右衛門, 十郎次	寛政2年	1790
6	うんこく 芸谷	画	わだうんこく 和田芸谷	うんこく 芸谷	正命, 仲之進		
7	えいうん 永雲	画	せとぐち 瀬戸口永雲	えいうん 永雲			
8	えいしゅん 栄春	画	せとぐち 瀬戸口栄春	えいしゅん 栄春, 栄雲, 鶴峯舎典孝			
9	えいしやう 英昌	画	ざるか 猿川英昌	えいしやう 英昌, 野舟			
10	えいりゆう 英龍	画	はつとり 服部貞栄	えいりゆう 英龍	嘉右衛門	天保13年	1842
11	えんけい 淵溪	画	ひぐち 樋口淵溪	えんけい 淵溪		文政10年	1827
12	かちやく 可竹	書・画	ひらた 平田可竹	かちやく 可竹, 幽谷	宗弘, 民部左衛門, 可竹, 宗恒, 平六, 喜角	寛文5年	1665
13	かんせん 寒泉	画	たけした 竹下寒泉	かんせん 寒泉, 竹裕	覚左衛門		
14	がんれい 巖齡	画	さかもと 坂本愛熊	がんれい 愛熊, 巖齡, 松竹軒巖齡	愛熊	明治6年	1873
15	きさい 毅斎	書	しまづ 島津毅斎	きさい 毅斎	君謨, 元弼, 長熊	享保17年閏5月1日	1732
16	きゆうえもん 休右衛門	書	えぐち 江口休右衛門				
17	ぎやうはん 暁帆	画	えぐち 江口暁帆	ぎやうはん 暁畔, 暁帆	親雄	天保10年	1839
18	ぎやうれん 行廉	画	しもこう 下河辺行廉	ぎやうれん 行廉, 細香廬, 桑蔭, 玄香堂, かんこうどう 観耕堂, 景洲, 老筍翁	藤蔵	文政12年9月19日	1829
19	ぎやくすい 玉翠	画	いのうえ 井上玉翠	ぎやくすい 玉翠, 翠庵	長秋, 弥八郎, 大和, 石見		

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
明治33年2月4日	1900	76		青山墓地		宮家の武士林篤国の子として京都に生まれる。薩摩藩士税所篤之に嫁すが、28歳で死別。島津斉彬六男哲丸の御守役となる。のち近衛家さらに宮中に仕え、掌待となる。	
天保10年3月19日	1839	79				長年寺、惠燈院、玉龍山福昌寺に住む、のち江戸に召され下野大仲寺住職となる。江戸泉岳寺塔中門良院に隠居、墨画で観音を描く。	
嘉永7年閏7月18日	1854	72	高雲院醫山全勇居士	南林寺		馬場養龍の子、栄信の子晴川院養信の「公用日記」に登場する。	「松下又鶴図」 「柳に鳥図」 「寿老人図」
明治30年5月24日	1897	75		大徳寺	能勢一清	能勢一清の子、内山次右衛門の養子となる。文久2(1862)年、藩主館内の絵を描く。明治15(1882)年、内閣絵画共進会に出品し、褒状を受ける。	「莊子図」 「松に虎図」 「猿猴図」
安政4年8月27日	1857	68	浄川院心齋一清居士	大徳寺	森玄心(西田の人)	能勢探龍の曾孫、嘉永6(1853)年花尾神社の天井画を描く。伊集院廣濟寺に十六羅漢図を奉納する。	「楼閣山水図」 「富士図」 「寿老人図」
嘉永4年11月6日	1851		芸谷軒解衣盤石薄居士	南林寺	小田海樗(百谷)	薩摩画壇では珍しく、浮世絵風の美人画を描く。	「美人図」 「元禄美人図」
					瀬戸口栄春	瀬戸口栄春の子	
					狩野栄川典信		「龍虎之図」
					能勢探龍	永井慶竺の養子となる。	
明治38年12月26日	1905	64				国分郷の服部家に生まれ、のち有馬家を継ぐ。西郷南洲像や美人画を描く。	「七福神図」 「西郷隆盛像」
						樋口探月の夫人	
享保13年8月1日	1728	64	仙林可竹首座	福昌寺	甫山和尚	吉野実方に可竹庵を営む。日置流弓術、甲州流兵法を学ぶ。僧尋亮とともに四国遍歴の旅を行う。書を善くし和歌を詠じ、墨画を描く。	
					父芳道、佐多椿斎	鹿児島に生まれる。狩野芳崖の筆意を慕う。昭和の初め、鹿城幹画会の幹事をつとめる。	鹿児島神宮壁画及び天井画
明和9年6月19日	1772	41	毅齋院殿君謨元弼大居士	知覧西福寺	青連院宮尊央親王、大谷永庵	島津継豊の3子、慈徳公の弟で知覧の領主。書を青連院宮尊央親王に学ぶ。	
享保12年10月13日	1727		暁雲澄江子	浄光明寺	鶴田蹇逸	楷書を良くする。上町の人	
大正10年3月18日	1921	83			佐多椿斎	西田に住す。	「唐子遊戯図」 「墨梅図」 「秋景山水図」
明治21日12月15日	1888	60		南林寺	能勢一清	詩歌、書、茶道、華道をよくする。木村探元使用印の模刻をする。	「豊葦原日出之図」
						四条派、藤井良節の弟	

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
20	ぎよくほう 玉峯	画	しげとく(号) 重玉峯	ぎよく(号) かいうんかんしゅじん 玉峯, 開雲館主人	實護, 君鎮, 政右衛門		
21	けいちく 慶竺	画	ながい けいちく 永井慶竺	けいちく けいちく 慶竺, 慶竹	常喜	貞享2年	1685
22	げんこ 元瑚	書	こうげんこ 向元瑚				
23	げんざ さいもん 源左衛門	画	いなとめげんざ さいもん 稲留源左衛門				
24	げんしゆ 玄珠	画	みかえ げんしゆ 深江玄珠	げんしゆ かんぎょ ていし 玄珠, 貫魚, 定視			
25	げんしやう 元章	画	たけさきげんしやう 竹崎元章	げんしやう げんしやう 元章, 元霄	武郷, 武董		
26	げんしん 玄心	画	もりげんしん 森玄心	げんしん 玄心			
27	げんりやう 元良	書	いんげんりやう 殷元良		庸昌, 真中	享保3年	1718
28	こうかん 江観	画	こじやうこうかん 古城江観	こうかん 江観	三之助	明治24年	1891
29	こうせん 甲川	書・画	こまつこうせん 小松甲川	こうせん 甲川	文雄	文久1年	1861
30	こうてんい 高天狩	書	あかみげんたい 深見玄岱	いざん ほっかい 猗山, 渤海	玄岱, 元泰, 斗瞻, 新右衛門	慶安2年	1649
31	こうはん 綱伴	書	すだこうはん 須田綱伴		傳弥		
32	こうやう 江洋	画	こじやうこうやう 古城江洋	こうやう 江洋	太郎	明治43年6月7日	1910
33	ごとう 呉東	画	いじちごとう 伊地知呉東	ごとう 呉東			
34	さいかい 西海	書・画	ひらやまさいかい 平山西海	さいかい さいかいりやうし ごらくちんじん 西海, 西海漁史, 五楽陳人	武世, 傳一郎	安永3年3月10日	1774
35	さねよし 實芳	書	たけうちさねよし 竹内實芳	こうはく 耕伯	善助		
36	さんざん 三山	書	みざさんざん 三坐三山	さんざん 三山	時資, 七郎佐衛門		
37	さんとう 三桐	画	もりさんとう 森三桐	さんとう 三桐	良實		
38	じやうえもん 次右衛門	画	なかはらじやうえもん 中原次右衛門	けいしやう 桂洲	雍, 子熙	享保11年	1726

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
					狩野養朴常信, 津曲朴栄	永井実益の子。都城北郷氏の家臣、養朴門人四天王（新井寒竹常償・大石古閑常得・長谷川養辰常時）の一人、弟子に坂本常有、川井田正蔵がいる。	「百猿図」 「寿老人図」
						小橋川親方、文政、天保頃の人	
						四条派	
文久2年3月21日	1862		富生軒貫山玄珠居士	南林寺	馬場伊歳, 住吉内記弘定	はじめ四条派を、のち住吉派を学びやまと絵を描く。奥医師格。	
					木村探元	本姓は紀氏	「東方朔・山水図」
						探幽様式を描く。	「富士図」
						姓は仲松（後年座間味と改める）	
昭和63年	1988	98				高尾野町出身、大正7年第12回文展に初入選、世界各地を遊歴、各地で個展を開催。	「中国風景画」
昭和13年	1938	78			佐多椿齋, 柳田龍雪, 鍋倉春窓	佐多椿齋の子、東京芝の成蔭学舎で漢学修業のかたわら、日本画を柳田龍雪、橋本雅邦に学ぶ。外務省、総理大臣秘書官を経て、鹿児島県立第一中学校や第一高等女学校で書や画の指導に当たる。	「秋鳥古木図」
享保7年8月8日	1722	74				長崎の人、深見と称す。	
寛政12年6月21日	1800		諦應常心居士	不断光院	道澄親王	須田流の祖	
						父江観と共に京都に赴き、山本春挙に学ぶ。各地で個展を開催。	「高千穂図」
					小田海僊 (百谷)	百谷の画法を良くする。	
弘化4年4月21日	1847	74			中村竹洞	種子島の人、『詩什漫遊詩稿』を著す。	
						種子島の人	
					森探瑞	森探瑞の子	
寛政7年9月7日	1795	70	透岩徹心居士	不断光院	江口順右衛門	草書を良くする、上町の人	

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
39	しげひで 重豪	書	しまづ しげひで 島津重豪	なんざん えいおう 南山, 栄翁	兵庫久方, 松平又三郎忠 洪, 上総介, 栄翁	延享2年11月7日	1745
40	しゅうが 周賀	画	みの だしゅうが 養田周賀	しゅうが 甫せん 周賀, 甫川	傅兵衛		
41	しゅうげつ 秋月	画	しゅうげつ 秋月	しゅうげつ ととうしゅうげつつ とうかん 秋月, 渡唐秋月, 等観	重兼		
42	しゅうりん 周林	画	こげつしゅうりん 弧月周林	しゅうりん 周林			
43	じゅうろうえもん 順右衛門	書	えくじゅうろう えもん 江口順右衛門				
44	じょうい 常以	画	さかもとじょうい 坂本常以	じょうい 常以	次郎兵衛		
45	しゅういん 松陰	画	ごだいともあつ 五代友厚	しゅういん 松陰	徳助, 才助, 友厚	天保6年	1835
46	じょうき 常徳	画	みの だじょうき 養田常徳	じょうき じょうせつ けいせんそう 常徳, 常雪, 恵川叟	長政, 傅兵衛	寛文5年3月19日	1665
47	じょうけい 常慶	画	おばやしじょうけい 小濱常慶	じょうけい じょうじ 常慶, 常治	清兵衛		
48	しゅうとうけん 松涛軒	画	やぎしゅうとうけん 八木松涛軒	しゅうとうけん 松涛軒	兼亮, 吉二	文政12年	1829
49	じよせつ 如雪	画	ひごじよせつ 肥後如雪	じよせつ きゆうさい 如雪, 左右斎	新造	嘉永1年10月	1848
50	じりょう 自了	書	じりょう 自了		真亀, 鉄可聖		
51	しんちゆう 信徴	画	なかしましんちゆう 中島信徴	げんしゆん ばくけい しんちゆう せつけい じょうぼんざんじん 玄春, 白圭, 信徴, 雪谿, 常盤山人	盛太郎, 一三	天保7年1月24日	1836
52	すいへい 翠屏	画	ひな たすいへい 平田翠屏	すいへい 翠屏	宗高	天保5年7月26日	1834
53	すけかた 助堅	画	わだ すけかた 和田助堅	かんらい 観霊	六郎左衛門	元文2年	1737
54	すみあき 純明	画	ありま すみあき 有馬純明	ぼじゆんめい かいん 馬純明, 夏陰	子達		
55	せいうん 静雲	画	ししめ せいうん 獅子目静雲	せいうん どうよう 静雲, 洞陽			
56	せいがん 静観	画	ひらおかせいがん 平岡静観	せいがん 静観	為十郎	文政7年11月25日	1824

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
天保4年1月21日	1833	89	大信院殿栄翁 加證大居士	玉龍山福昌 寺		重年の子、島津氏25代当主、進取の気象に富み、洋学を好む。藩校造士館を始め、文化、教育、医学などの事業を積極的に進める。「南山俗語考」「成形図説」「鳥名便覧」などを編纂。養女茂姫を將軍家斉へ嫁がせる。	
					狩野周信如川		
					雪舟等揚	高城邑主越中守重頼の子、高城権頭、『鳥陰魚唱』を著す。福昌寺に住し、桂庵画像を描く。	「山水図」「芦雁図」「白鷺図」「船子夾山図」「東帯天神図」
					雪舟の筆意を学ぶ。		「東帯天神像」
				浄光寺	江口休右衛門	行書を良くする、上町の人	
					狩野養朴常信	坂本養伯の父	
明治18年9月25日	1885	53		大阪阿倍野		五代秀堯の子、大阪の経済界で活躍。竹の絵を良く描く。	
享保17年3月17日	1732	68	丹青仙鶴居士		狩野養朴常信	隅州帖佐郷の人、島津吉貴に召され本府の士となる。宮地惣衛門と共に、宝永3～4(1706～07)年、鹿児島城の造営に当たり、杉の間、菊の間、鴨居の上などの絵を描く。	
					狩野養朴常信	始め紀州の狩野興益に師事、のち常信の門に入る。	
嘉永7年10月10日	1854	26	賢山玄了居士	南林寺	能勢浄川軒一清	師の一清は、常にその画才を賞賛する。	
					国分友雪		
						琉球の人、姓は城間	
明治39年1月10日	1906	71		薬王寺	森養淳、 馬場伊歳	中島定房の子、島津斉興、斉彬、忠義に仕える。元治元(1864)年、島津久光に召された武田信充から有職故実を学び、作画に生かす。晩年は、巨勢金岡、藤原真実の画風を研究する。	「源義経馬上姿」 「菊池武保像」
明治29年3月7日	1896	63			渡辺淳(芝谷)	平田宗敬(楠斎)の子、狩野派、文人画を良くする。	「菊花図」 「山水図」
文化4年1月17日	1807	71	別家不傳居士		和田雪観、 木村探元	和田雪観の子で、常陸流の剣法を良くする。	「并尻神力坊図」
						草牟田に住む。	
						狩野派風の作品を描く。	「旭日鶴図」
明治33年1月29日	1900	77		南林寺	平岡為龍	平岡為龍の子、鹿児島藩細工所絵師、明治15年内国絵画共進会で褒賞を受ける。	

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西曆)
57	世輝	書	毛世輝				
58	正心	書	正真正心	正真, 正心, 三国筆海堂	忠辰, 素介		
59	正精	画	床次正精	把翠軒	正蔵	天保13年5月8日	1842
60	晴文	画	速見晴文	晴文, 緑濃舎	雄吉, 晴章	文政4年	1821
61	石屋	書	石屋禪師	石屋	真梁	貞和1年7月17日	1345
62	雪観	画	和田雪観	雪観, 玉巖, 等鉄, 等舟, 寒松軒	助豪, 源太兵衛, 助員	宝永3年	1706
63	石溪	書	町田石溪	石溪			
64	雪篷	書	川口雪篷	香雲, 醉眠	量次郎, 俊作	文政1年	1818
65	惣右衛門	画	宮地惣右衛門				
66	則文	書・画	若松則文	南坡	次右衛門		
67	大八	書	馬渡昌興	大八, 集義斎	剛毅	享保15年	1730
68	大鳳	画	竹村大	大鳳		文化10年	1813
69	澤水	書・画	訓谷澤水	澤水			
70	忠義	書	島津忠義	惟恭, 秋扇	壮之助, 又次郎, 忠徳, 修理太夫茂久	天保11年4月21日	1840
71	種美	書	田尻種美		次兵衛, 大蔵	寛政6年	1794
72	為龍	画	平岡為龍	暁雲子	澤右衛門	天明6年	1786
73	多門	画	山内多門	多門, 都州, 容谷	子弘	明治11年4月29日	1878
74	探隠	画	長峰探隠	探隠, 等隠, 碧水		天明5年	1785
75	探隠	画	白石探隠	探隠	守辰, 幾右衛門		

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
						我謝親雲上毛世輝, 享和, 文化頃の人	
						日向国真幸院の出身で, 水戸光圀に仕えたと伝え, 書を良くした。『筆海全書』(20巻)を著す。	「名文抄録」(寛文9年)
明治30年10月20日	1897	56		大徳寺	能勢一清	児玉家に出て, 床次家を継ぐ。明治11(1878)年頃から洋画を学ぶ。	
明治35年	1902	82			和田芸谷, 竹下寒泉	都城の人, 長崎で医学を学ぶ。	
応永30年5月11日	1423	79		福昌寺	南禅寺 豪山和尚	福昌寺開山, 伊集院長門守忠国の子	
安永6年7月15日	1777	72	淡水軒助勇了心居士	笑岳寺	木村探元	田布施の人, 田中傑山門人で常陸流剣術の達人でもある。	「蓬莱山図」 「高士像」
明治23年6月	1890	73				種子島の人, 西郷隆盛と交流があり, 西郷に書と詩を教える。西郷没後は, 西郷家のめんどうをみた。李白の漢詩を良く書く。	
						踊の士, 鹿児島城において襄田傳兵衛と共に描く(宝永4(1707)年)	
安政6年8月9日	1859		文山 中徳居士	常安峯	山田清安(和歌), 絵の師は不明	四条派の絵を良くする。和歌を山田清安に学ぶ。	
寛政4年4月5日	1792	63	集義斎 逆奠居士	光徳院		国分浜之市出身, 草書を良くする。	
明治6年8月12日	1873	61		宇治大鳳寺		四条派	「富士図」
						家に法書, 名画を多く蔵す。	
明治30年12月26日	1897	58		常安峯		久光の子, 島津氏29代, 斉彬, 久光の意志を継ぎ, 公武合体を進める。藩知事をつとめる。	
安政2年8月4日	1855	62	雲芳院 飄然義芸居士	南林寺	松村景文	伏見御飯屋守, 京都御留守居	
天保11年11月11日	1840	55		南林寺のち 不断光院			
昭和7年5月30日	1932	55			中原南溪, 橋本雅邦, 川合玉堂	都城の人, 22歳の時に上京し, 川合玉堂に師事, のち橋本雅邦に入門する。第1回文展で三等賞受賞。大正9年から帝展審査員をつとめる。	
文久1年	1861	77		量海院	山路探定, 狩野探淵 守真	都城の人, 俳句も良くする。八田知紀と親交がある。	
					木村探元, 江戸で狩野に学ぶ		「猿猴捉月図」

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
76	探英	画	山路探英	探英			
77	探溪	画	山路探溪	探溪		宝暦12年	1762
78	探月	画	児玉探月	探月, 定山	守約		
79	探月	画	樋口探月	探月, 守保		文政5年2月25日	1822
80	探謙	画	永井探謙	探謙	守晟		
81	探賢	画	大山探賢	探賢	守三		
82	湛賢	画	湛賢	湛賢			
83	探元	画	木村探元	時員, 守廣, 探元, 探元斎, 黔瀛木邨々子, 大貳法橋, 三晚庵, 静隠, 斗山玄風, 駁茶翁, 李膽, 麟照, 黄瑞居士, 細堂廬, 清山古人, 晚山	時経, 村右衛門, 金平, 金左衛門, 半蔵	延宝7年7月18日	1679
84	探濬	画	川端探濬	探濬			
85	探定	画	山路探定	探定, 松石子, 守行, 探溪, 探陽	通旭, 通虎, 喜平太	享保13年	1728
86	探浄	画	園田探浄	探浄	守志	文化13年5月27日	1816
87	探翠	画	児玉探翠斎	探翠	實行, 守清		
88	探瑞	画	森探瑞	探瑞	守安, 傳左衛門	享保9年	1724
89	探成	画	谷山探成	探成	守昭	文化4年5月1日	1807
90	探達	画	古藤探達	探達, 松雲子			
91	探竺	画	東條探竺	探竺	守興		
92	探龍	画	能勢探龍	探龍, 探龍斎守成, 曙山, 紹謙, 得雲斎, 贖翁, 九卓亭, 梅林堂	治休, 覚内, 権八, 権之助, 守成	元禄15年	1702
93	親定	画	安山親定		良右衛門	元禄5年12月25日	1692
94	中斎	書	山田中斎	明允, 中斎	廣受, 師疏, 良介, 村人	文政2年9月27日	1819

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
					山路探定	山路探定の子	
文化13年	1816	55			山路探定	山路探定の子	
明治29年12月	1896	75			狩野探淵守真	樋口守之の子、黒田清輝が13歳の頃日本画の初歩を学ぶ。	「墨杉図」 「天神図」 「群鳥図」
					木村探元		「布袋像」
慶応3年12月2日	1867		賢山探道居士	薬王寺	馬場伊歳, 狩野探淵守真	大山等雪の子	
					秋月	日向の人、永正頃の人	
明和4年2月2日	1767	89	浄徳堂法浄庵主	南林寺	小濱清兵衛常慶, 狩野探信守政	「見事探元」の言葉が残る。元禄16(1703)年鍛冶橋家の探信守政の門に入る。同20年には近衛家に呼ばれ、元春、探龍と共に席画を行う。法橋に任ぜられ、大貳の名を賜う。	「富士図」 「四季耕作図」 「寿老人図」 「呱呱鳥図」 「布袋図」
					山路探定		
寛政5年10月23日	1793	66	大進法橋泰山探定庵主	南林寺	木村探元, 狩野探林	都城北郷氏の家臣、奥医師格となり大進法橋。鍛冶橋家探牧守邦の後見を務める。	「寿老人・山水図」 「高然暉山水図」 「鍾馗図」 「山中吹笛図」
明治20年6月18日	1887	72		南林寺	馬場伊歳, 狩野探淵守真	荒田の人	
					狩野探信守道		「武者絵」
明和6年3月18日	1769	46	探淵得瑞居士	大円寺(南林寺に招魂墓あり)	木村探元	始め探元に学び、のち江戸に赴き狩野家に入門	
明治12年1月14日	1879	73		薬王寺	狩野探信守道	谷山洞龍の子、西田の人	「寿老人図」
					山路探定		「雲龍図」 「寿老人図」
宝暦5年2月4日	1755	54	呉道軒探龍騰雲居士	柿本寺	木村探元	探元に従い能勢探龍と共に上京(享保19~20年3月, 1734~35)	「春秋山水図屏風」 「竹林七賢図」 「山水図」
安永6年3月8日	1777	86	節山良本居士		木村探元	安山親信の子	
明治5年3月7日	1872	54		南林寺	鄭元偉, 有川梅隠	儒者山田十介(鼎齋)の子、島津光久に仕え、その子息に書を教える。弟子に坂元純熙、東郷重持、竹下鶴外などがいる。	

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西曆)
95	ちんさい 椿斎	画	さな ちんさい 佐多椿斎	ちんさい ぼんうんさい りそん かしゅう (俳号)	清重, 瘤山, 龍淵	文化14年7月15日	1817
96	つくとよ 継豊	画	しまづ つくとよ 島津継豊		鍋三郎, 又三郎忠休, 松平大隅守継豊	元禄14年12月22日	1701
97	つななか 綱貴	画	しまづ つななか 島津綱貴		虎寿丸, 又三郎延久, 松平修理太夫綱貴	慶安3年10月24日	1650
98	つなひさ 綱久	画	しまづ つなひさ 島津綱久		虎寿丸, 又三郎久平, 松平薩摩守綱久	寛永9年4月1日	1632
99	つねおき 常興	画	ふじきつねおき 藤崎常興	つねおき	藤左衛門		
100	つねちか 常親	画	やすやまつねちか 安山常親	つねちか	早平衛, 親信	慶安2年9月28日	1649
101	つねふさ 常房	画	とくだ つねふさ 徳田常房	つねふさ	市左衛門		
102	つねゆき 常之	画	なからべ つねゆき 財部常之	つねゆき	権兵衛, 盛茂		
103	てい かくん 鄭嘉訓	書	てい かくん 鄭嘉訓	たいしゅう まつざきさんじん 泰橋, 松崎山人	真浪, 古波蔵親方	明和4年(乾隆32年)	1767
104	ていげん い 鄭元偉	書	ていげん い 鄭元偉	つうとくどう ぜんしゅう 通徳堂, 善橋	長烈	寛政4年(乾隆57年)	1792
105	ていさい 鼎斎	書	やまだ ありひろ 山田有裕	ていさい	十介, 有裕	天明5年	1785
106	てつがん 徹巖	画	まつもと なおじ 松本直治	てつがん	直治	明治13年2月28日	1880
107	てん う 天雨	書・画	こなま てん う 児玉天雨	てん う き さい 天雨, 毅斎	彰, 源之丞	文政9年6月15日	1826
108	とうえん 東園	画	とうじょう とうえん 東條東園	とうえん	義遠, 鉄兵衛		
109	とうかい 等海	画	とうかい 等海	とうかい			
110	とうがく 東岳	画	ひらやま とうがく 平山東岳	とうがく せん 穂 東岳, 千穂	龍助, 季雄	天保5年	1834
111	とうけい 東溪	画	か い とうけい 甲斐東溪	とうけい	弥右衛門		
112	とうげい 等藝	画	とうげい 等藝	とうげい			
113	とうげつ 等月	画	やまぐち とうげつ 山口等月	とうげつ	廣重, 五郎右衛門, 半助		
114	とうげつ 洞月	画	やまぐち とうげつ 山口洞月	とうげつ とうげつ びげん 洞月, 洞月美賢	美賢		

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
明治24年2月15日	1891	75		南林寺	馬場伊歳, 伊地知馬翁 (俳句)	旧名は上脇龍淵で、佐多音右衛門の子。 狩野派, 奥医師掬	「山水図」 「竹に虎図」 「円窓寿老人図」
宝暦10年10月20日	1760	60	宥邦院殿円鑑 享盈大居士	玉龍山福昌 寺		吉貴の子, 島津氏22代, 將軍綱吉の養女 竹姫を正室に迎える。	「柿本人麻呂図」
宝永1年9月19日	1704	55	大玄院殿昌道 元新居士	玉龍山福昌 寺		綱久の子, 島津氏の20代, この時代御手 伝普請や火災, 地震が続き, 藩財政も困 難を極める。	
寛文13年2月19日	1673	42	泰清院殿良無 居士	玉龍山福昌 寺	和歌を誦訪 兼利に学ぶ	光久の子, 泊如竹や誦訪兼利らを重用す るが, 藩主に就かないうちに没した。	
					狩野養朴常信		
享保9年5月28日	1724	76	齋玄齋	南林寺	坂本常以・ 狩野養朴常信	藩内諸地区の絵図を描くと伝える。	
					狩野養朴常信		
					狩野養朴常信		
天保3年(道光12年)	1832	66				琉球の人, 高津斉興に招かれる。諸士に 書を教える。	
						鄭家訓の二男, 父と同じく薩摩藩に仕え る。諸稿「東遊艸」を著す。	
明治6年	1873	89			鄭元偉	詩文に長じ, 書を良くする。島津斉興, 斉彬の時代から造士館教授をつとめる。	
					上田鉄耕, 野村紫水	志布志町出身, 福岡絵画学校で学び, の ち陸軍に入る。虎を良く描き, 「徹巖の 虎」として知られる。	「松図」
明治21年12月24日	1888	63			昌平校に学 ぶ	上原源兵衛の子, 後兪玉甚蔵の養子とな る。造士館の儒官	
						東條探竺の子, 荒田に住す。	
					秋月	長富氏, 大隅の人, 天文頃の人	
明治32年12月14日	1899	66		大徳寺	甲斐東溪, 長谷川玉峯, 塩川文鱗	四条派の絵をよくする。薩英戦争, 戊辰 戦争に参加。種子島の地頭を勤める。宮 内省御用掛。宮崎八幡宮に蒙古襲来図を 奉納する。	「富士図」 「霧島神宮図」 「春景山水図」 「馬上武士図」
					竹村大鳳	谷村巢玄の子, 甲斐権兵衛の養子となる。	「春景山水図」
					秋月, 雪舟	日州福島の人	
					内藤等甫	山口清左衛門重保の孫, 入来の人, 寛陽 院(光久)に召され, 本府の士となる。	
文化8年2月28日	1811		溪雲洞月居士	南林寺	狩野洞春美信	奥山正蔵の二子で, 元陽と称する。寛政 6(1794)年, 山口興左衛門篤好の養嫡 子となり, 御細工所の絵師をつとめる。	「山水図」

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
115	等見 <small>とうけん</small>	画	等見 <small>とうけん</small>	等見, 十輪(福)坊等見 <small>じゅうりん ぼく ほうとうけん</small>			
116	等薩 <small>とうさつ</small>	画	等薩 <small>とうさつ</small>	波月, 波月等薩, 等薩 <small>はげつ はげつとうさつ とうさつ</small>	弓削	永正13年	1516
117	等秀 <small>とうしゅう</small>	画	等秀 <small>とうしゅう</small>	等秀 <small>とうしゅう</small>			
118	等碩 <small>とうせき</small>	画	等碩 <small>とうせき</small>	等碩 <small>とうせき</small>			
119	等雪 <small>とうせつ</small>	画	等雪 <small>とうせつ</small>	等雪 <small>とうせつ</small>			
120	等雪 <small>とうせつ</small>	画	大山等雪 <small>おおやまとうせつ</small>	等雪 <small>とうせつ</small>	網廣, 勘介		
121	等坡 <small>とうは</small>	画	等坡 <small>とうは</small>	等坡 <small>とうは</small>			
122	等甫 <small>とうほ</small>	画	内藤等甫 <small>ないとうとうほ</small>	等甫, 自閑斎 <small>じかんさい</small>	利實, 善左衛門		
123	洞龍 <small>どうりゅう</small>	画	谷山洞龍 <small>たにやまどうりゅう</small>	洞龍, 探楽, 大進法橋谷山洞龍美清 <small>なんらく だいしん ほんきょう たにやまどうりゅう びせい</small>	美清		
124	等林 <small>とうりん</small>	画	日野等林 <small>ひの とうりん</small>	等林, 入道等林 <small>にゅうどう とうりん</small>	国明, 藤次兵衛, 掃部助		
125	知紀 <small>ちのり</small>	書	八田知紀 <small>はつた ちのり</small>	桃岡 <small>とうこう</small>	彦太郎, 喜左衛門, 知紀	寛政11年9月15日	1799
126	直喜 <small>なおき</small>	画	二木直喜 <small>ふたき なおき</small>	馨徳堂翠山 <small>こうとくどうせいざん</small>		天保6年9月5日	1835
127	斉彬 <small>なりはら</small>	画	島津斉彬 <small>しまづ なりはら</small>	麟州, 盤山 <small>りんしゅう ばんざん</small>	邦丸, 又三郎, 忠方, 兵庫頭, 豊後守, 修理太夫	文化6年9月28日	1809
128	南溪 <small>なんけい</small>	画	中原南溪 <small>なかはら なんけい</small>	南溪, 把霞堂, 蒼溪斎, 石峰軒, 愛松廬 <small>なんけい はあどう そうけいさい せきほうけん あいしゅうろ</small>	莊太郎, 正藏, 貞邦	天保1年	1830
129	南鳳 <small>なんほう</small>	画	赤池南鳳 <small>あかいはら なんほう</small>	南鳳 <small>なんほう</small>		天保6年	1835
130	信尹 <small>のぶただ</small>	書	近衛信尹 <small>このゑ のぶただ</small>	可因 <small>かゐん</small>	信基, 信輔, 岡兵衛	永禄8年	1565
131	梅隠 <small>ばいいん</small>	画	有川梅隠 <small>ありがわ ばいいん</small>	梅隠, 白眉道人 <small>ばいいん びやくびどうじん</small>	貞熊, 利右衛門	明和8年	1771
132	梅雪 <small>ばいせつ</small>	画	梅雪 <small>ばいせつ</small>	梅雪 <small>ばいせつ</small>			
133	伯榮 <small>はくえい</small>	画	平井伯榮 <small>ひらい はくえい</small>	伯榮, 石虎叟 <small>せつこそう</small>	政玄, 勘右衛門		

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
					秋月	隅州庄内における山伏の惣職，財部寿福坊等賢と同人か。	
					秋月，周徳，等坡	田布施に墓ありと伝える。隅州国分の人，のち加治木に住す，7度入唐，三十六歌仙を描く，天正3（1575）年，60歳の作品が存在する。	「花鳥図屏風」 「四季耕作図」
						島津家のために架鷹図を描く。	
						秋月の子	
					雪舟，秋月	日向の人，永正頃の人	
嘉永2年1月23日	1849		大心了悟居士	薬王寺	狩野探信守道	伊地知季安に命ぜられ，天保11（1840）年，高城秋月筆の桂庵和尚肖像を写す。	
					秋月	小根占園林寺の住持	
寛文4年8月5日	1664		等甫自閑居士	興国寺	狩野自適斎尚信	庄内の人（北郷氏家臣），慶安年間（1648～51）の頃鹿兒島の士となる。	
文化8年11月28日	1811		雲山洞龍居士	薬王寺	狩野洞春美信	大進法橋，成形図説の挿し絵を描く。谷山探成の父	「山水図」
					弓削等薩	同朋衆となり珍阿彌という。姓は田中と伝える説もある。家久の命により宇治川合戦図屏風を描き，妙園寺に納む。慶長13（1608）年，孔子聖蹟図屏風を模写し，高野山蓮金院に寄進（現在目黒雅叙園蔵）。	
明治6年9月2日	1873	75		大円寺	香川景樹	27歳の時に京都藩邸蔵役を命ぜられ上京，余暇に歌道を学んでいたが，山田清安の斡旋によって香川景樹に入門。皇学所御用係，宮内省御用掛をつとめる。	
					馬場伊歳	二木清房（竹翁）の子，鹿兒島藩御細工所絵師	
安政5年7月16日	1858	50	順聖院殿英徳良雄居士	玉龍山福昌寺		齊興の子，島津氏28代，富国強兵，殖産興業，西洋科学の採用，人材の育成などにつとめ，英明君主の名が高い。	「唐美人図」
明治30年	1897	68			能勢一清	都城の人，弟子に山内多門，小山田篤定などがある。	「鍾馗図」
大正1年	1912	78			若松則文	都城の人，吉瀬種勝の第3子として生まれるが，母方の赤池家を継ぐ。後年，円山派の小波南洋について画法を学び，円熟味を加える。	
慶長19年11月25日	1614	50	三藐院		春屋，古溪，沢庵	関白太政大臣前久の子で，官位は摂政関白まで昇進したが，政争に巻き込まれ坊津に流される。寛永の三筆の一人	
嘉永5年2月23日	1852	82	弧山軒梅隠暗香居士	興国寺		明人の画法を学び，墨梅を良くする。薩摩藩士伊集院兼道の子，後有川家の養子となる。	「墨梅図」
						日向の人，永正年間（1504～20）頃の人	
貞享3年	1686				坂本養伯	谷山の人，養伯と共に上京，近衛家に滞在する。	

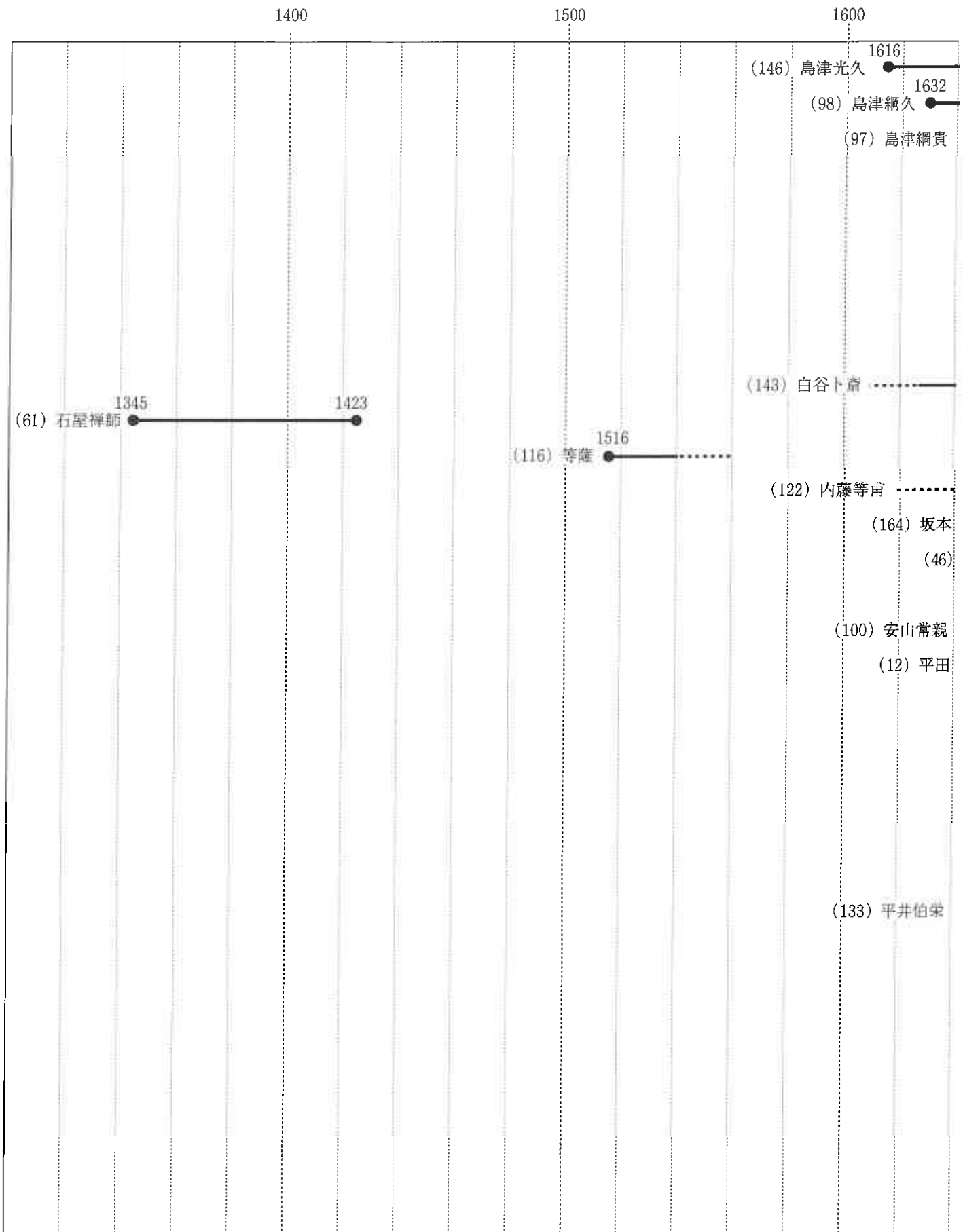
番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
134	ほくしん 伯親	画	おおしげほくしん 大重伯親	ほくしん 伯親	政喬		
135	ほっかく 白鶴	書	きめしまほっかく 鮫島白鶴	ほっかく おしろう うんら こせん ぎいちゆう 白鶴, 黄裳, 雲蘿, 鼓川, 在中, 喺翁	元吉, 吉左衛門	安永2年	1773
136	ひきなり 久成	書	まちだひきなり 町田久成	せきこくどうじん 石谷道人	民部	天保9年1月2日	1838
137	ひきみつ 久光	書	しまづひきみつ 島津久光	そしろう だいせん ぜんこどうじん ひしおう 双松, 大簡, 玩古道人, 無志翁	忠教, 又次郎	文化14年10月24日	1817
138	ふせきしやうじん 不石上人	書	ふせきしやうじん 不石上人		玉超		
139	ぶんぎ 文蟻	画	みやしたぶんぎ 宮下文蟻	ぶんぎ 文蟻	文蟻	文政2年	1819
140	ぶんぎ 文義	画	みはらぶんぎ 三原文義	ぶんぎ 文義	経世, 次郎左右衛門	文化9年8月1日	1812
141	ぶんびやう 文豹	書	さいしよぶんびやう 税所文豹	ぶんびやう 文豹	篤之, 龍右衛門	文化6年	1809
142	ほくえい 朴榮	画	つばがほくえい 津曲朴榮	ほくえい 朴榮	常好, 利左衛門		
143	ほくさい 卜斎	画	しらたにほくさい 白谷卜斎	ほくさい 卜斎			
144	まさのぶ 昌信	書	やぎなんごまさのぶ 八木丹後昌信		新右衛門		
145	まさのぶ 正信	書	やぎまさごのけいまさ 八木越後守正 信	まさのぶ 嘉竺	主水佑		
146	みつひさ 光久	画	しまづみつひさ 島津光久		虎寿丸, 又三郎忠元, 松 平薩摩守光久	元和2年6月2日	1616
147	むじんそうぼまつ 無人相菩薩	画	のづむじんそうぼ 野津無人相菩 薩	だいけんじごいむじんそうぼまつ 大親自在無人相菩薩	親倍, 八兵衛, 藤兵衛	享保11年4月23日	1726
148	むねのぶ 宗信	画	しまづむねのぶ 島津宗信		益之助, 又三郎忠顯, 薩 摩守宗信	享保13年6月13日	1728
149	もうし 毛氏	書	さどやまもうし 佐渡山毛氏				
150	もとはる 元春	画	おしかわもとはる 押川元春	もとはる ろつきちもとはる 元春, 六吉元春			
151	もとやす 元安	画	なんごうもとやす 南郷元安	なんけんめい 南兼明	三左衛門		
152	やへいた 弥平太	画	いちなりやへいた 市成弥平太		武政		

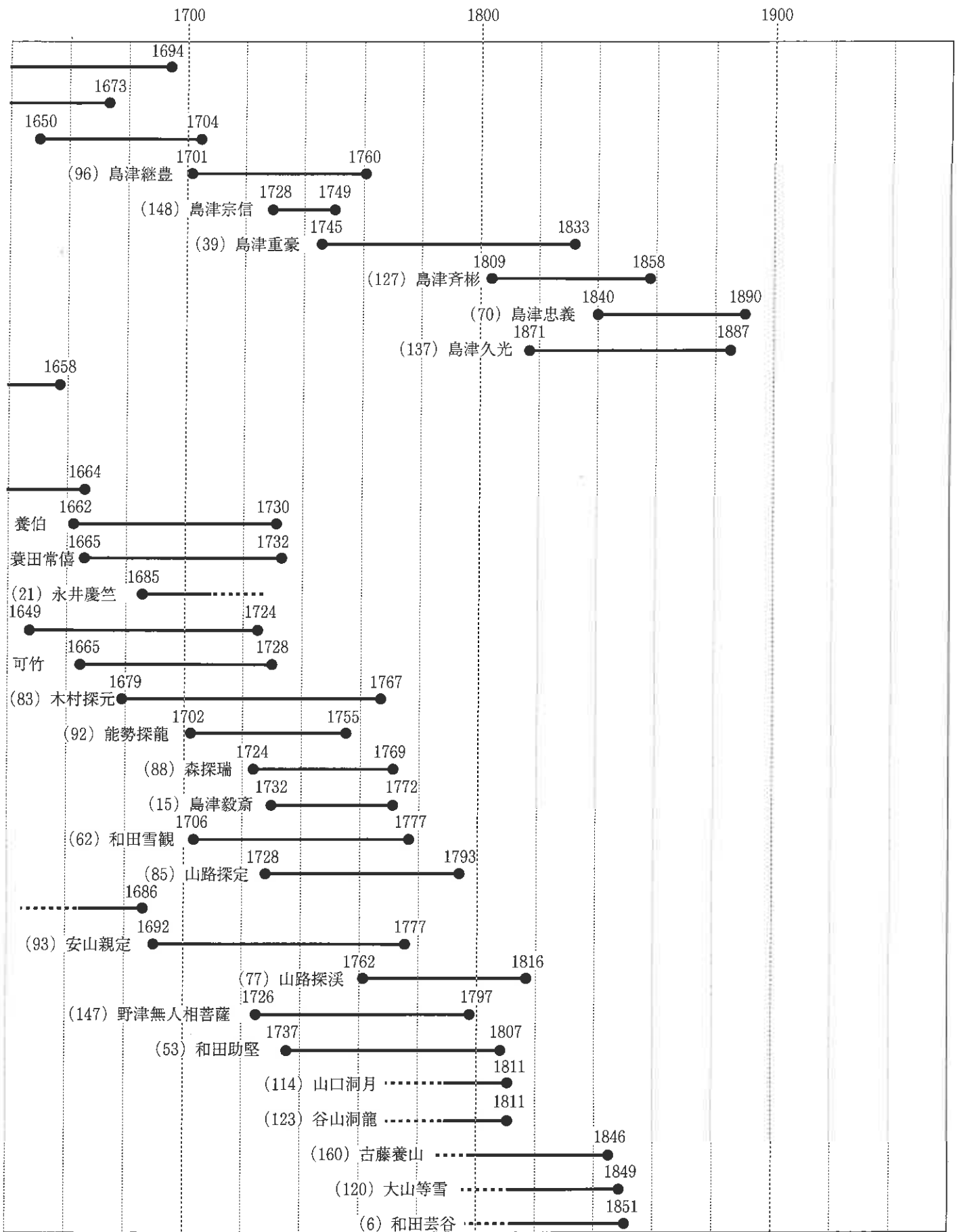
歿年月日	(西曆)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
					坂本養伯		
安政6年5月6日	1859	87	乾坤自在居士	不断光院	馬渡大八	鮫島散木の子、藩の御用で江戸、琉球、京都に赴くが、各地で書を賞賛され、生前から偽筆が出ていた。酒をこよなく愛し、性格は豪放、規格にはまらない人である。	
明治30年9月15日	1897	60		長等山法明寺	林鶯溪	町田少輔の子、帝國博物館長、三井寺光浄寺の住職となる。	
明治20年12月6日	1887	71		福昌寺		斉興の五男、重富島津家を継ぐ。幼少より学問を好む。明治新政府で、参議、内閣顧問、左大臣をつとめる。	
						鹿児島大乘院24代の住持、田之浦真言宗潮音寺、顯娃瑞應寺の住持、不石の蘭として知られる。	
明治14年11月28日	1881	63		南林寺		四条派、伊地知希賢の子	
					和田芸谷	三原次郎四郎(静軒)の子、長谷川玉峯と交わる。	
嘉永5年2月23日	1852	44		京都東福寺	松村景文	税所敦子の夫、京都見聞役。和歌を千種有功に学ぶ。	「天神図」 「山水図」
					狩野養朴常信	都城の人、島津綱貴に召され、本府の士となる。	
万治元年	1658		利光、大炊左衛門		狩野光信	都城の家臣、文禄年間(1592~95)、京へ赴き、狩野光信に学ぶ。一説には光信の高弟狩野興以に学んだとも伝える。	
寛永4年	1627		鶴安玄耕庵主	南林寺		八木正信の子、島津家久の右筆	
				南林寺	青蓮院尊朝親王	島津義久右筆、真幸吉田地頭をつとめる。	
元禄7年11月29日	1694	79	寛陽院殿泰雲慈温大居士	玉龍山福昌寺	狩野探幽を慕う	中納言家久の子、島津氏19代、学問を好み、伊勢貞昌らの教えを受ける。農政整備、新田開墾、金山開発を進める。	
寛政9年9月23日	1797	72	大観自在無人相菩薩	南林寺		薩摩藩士野津正太左衛門親永の子、元文5年野津藤内の養子となる。仏画を良くし、経文による文字絵を描く。	「十六羅漢図」 「楊柳観音図」 「三尊宮図」 「天狗図」
寛延2年7月10日	1749	22	慈徳院殿俊巖良英大居士	玉龍山福昌寺		継豊の子	
						佐渡山里之子親雲上毛氏、嘉永、安政頃の人	
					木村探元	探元に従い能勢探龍と共に上京(享保19~20年3月、1734~35)、島津継豊公側室出産の折、佳瑞の鶴を描く。	「松鶴図」 「寒山拾得図」
					山路探定		
					木村探元		

番号	名	分野	姓名	雅号	通称	生年月日	(西暦)
153	祐以	画	米村祐以	祐以	乘勝, 源兵衛		
154	友将	書	平野伊兵衛友将		采女		
155	友雪	画	国分友雪	友雪, 桑山子, 為廣		文化14年	1817
156	養圓	画	有田養圓	養圓, 養道			
157	楊月	画	楊月	楊月, 和玉			
158	養建	画	小林養建	養建, 醉蝶斎		文化12年7月12日	1815
159	養元	画	瀬戸口養元	養元, 麟朝			
160	養山	画	古藤養山	養山, 松雪斎	惟旭		
161	養淳	画	森養淳	養淳, 清閑斎, 養浩			
162	養定	画	伊東養定	養定, 養定斎		安永9年	1780
163	養真	画	古藤養真	養真			
164	養伯	画	坂本養伯	養伯	勘兵衛, 重賢	寛文2年	1662
165	養龍	画	馬場養龍	養龍	惟澄		
166	義貞	書	長崎義貞	義貞	助左衛門		
167	来鳳	書	柳田来鳳	来鳳, 玉川, 柳温	温友		
168	蘿山	画	本田蘿山	蘿山, 桜州	小次郎, 親頭	文政3年2月12日	1820
169	蘭斎	画	笹川蘭斎	蘭斎	満朗, 五兵衛, 傳	文政7年12月19日	1824
170	龍瑞	画	谷山龍瑞	龍瑞		天保1年3月11日	1830
171	龍雪	画	柳田龍雪	龍雪, 拓梁斎, 一松斎		天保4年5月28日	1833

歿年月日	(西暦)	年齢	法名	墓所	師匠	略歴	作品
					狩野興以		
貞享4年5月8日	1687		松嶺夏休居士	大興寺		島津光久の右筆	
明治12年	1879	63				平岡澤右衛門為龍の子、狩野派	
					狩野勝川院雅信		
					周文、雪舟	山城国の南に位置する笠置寺に住す、笠置楊月と称す。	「瓜・筍図」 「四季山水図屏風」 「山水図」
明治9年5月17日	1876	62		蘭桂院	馬場伊歳、 狩野晴川院 養信	西田の人、「烏丸光広奥書三十六歌仙」を模写。養信の「公用日記」に登場する。	「雲龍図」 「竹虎図」
					狩野養川院 惟信	竹澤養溪の後をうけて狩野家鑑定の取次を行うが問題を起す。	「寿老人図」
弘化3年9月24日	1846	70余	入神院		狩野養川院 惟信	屋敷奥絵師格、江戸を中心に活躍。晴川院養信の「公用日記」に登場する。	
					狩野晴川院 養信あるいは 伊川院栄 信	狩野養信の「公用日記」に登場する。	「鴛鴦図」
万延1年	1860	81	安楽院正貳大 法橋養定齋 位	南林寺		狩野派（木挽町か）、正貳法橋	「関羽図」 「寿老人図」
					狩野晴川院 惟信	古藤養山の子、「乙寺縁起」の模本作成に参加。養信の「公用日記」に登場する。	
享保15年8月3日	1730	69	紅林軒養伯玄 心居士	柿本寺	狩野養朴常 信	法橋、坂本常以の子。宝永3（1706）年禁中へ屏風献上。同3～4年近衛家に滞在。薩摩藩海辺の絵図を描く。木村探元の師とも伝える。	「芦雁図」 「馬図」
					狩野養川院 惟信	馬場伊歳の父	「旭日老梅図」
					近衛信尹	島津義久の右筆	
						種子島の人、『詩什漫遊詩稿』を著す。書、彫刻、花道にもすぐれる。天保から文久年間に活躍する。	
元治1年7月22日	1864	45	繪嘗白道羅山 居士	本誓寺	小田海僊 （百谷）	加治木の人、嘉永年間京都に赴き、松村呉春の弟子小田海僊に学ぶ。	「虎図」 「鷹図」
明治16年5月27日	1883	60		荒田正建寺	谷川探成	種子島の人	
明治24年10月17日	1891	62		薬王寺	谷山探成、 狩野勝川院 雅信	谷山探成の子、坂本巖齡の師	
明治15年10月17日	1882	50		青山墓地	馬場伊歳、 狩野勝川院 雅信	柳田鉄之助の子、印刷局石版科長	「薩英戦争絵巻」 「霧島栄之尾之図」

書画人の活動期





1400

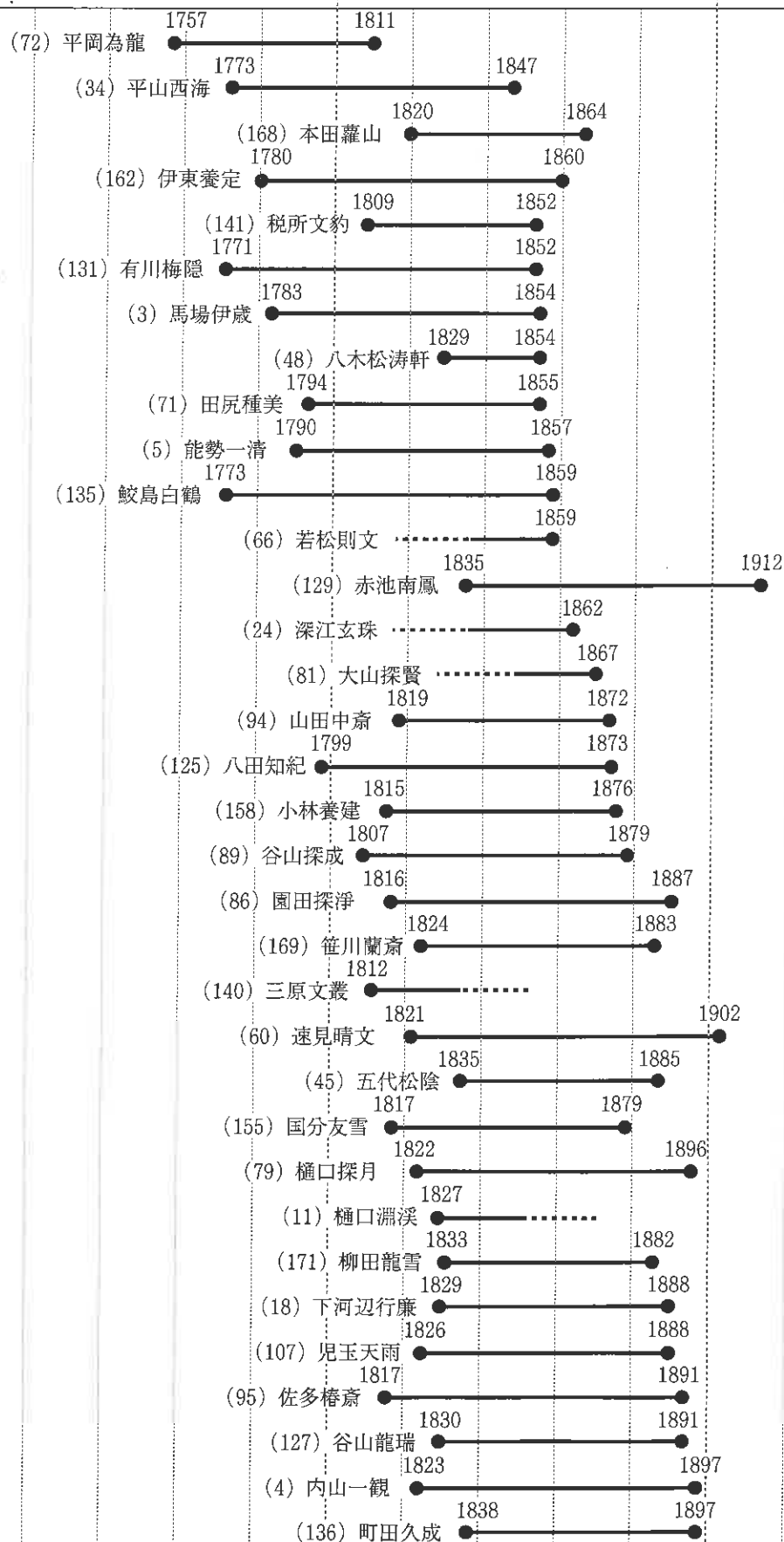
1500

1600

1700

1800

1900



1400

1500

1600

(139) 近衛信尹 ● 1565

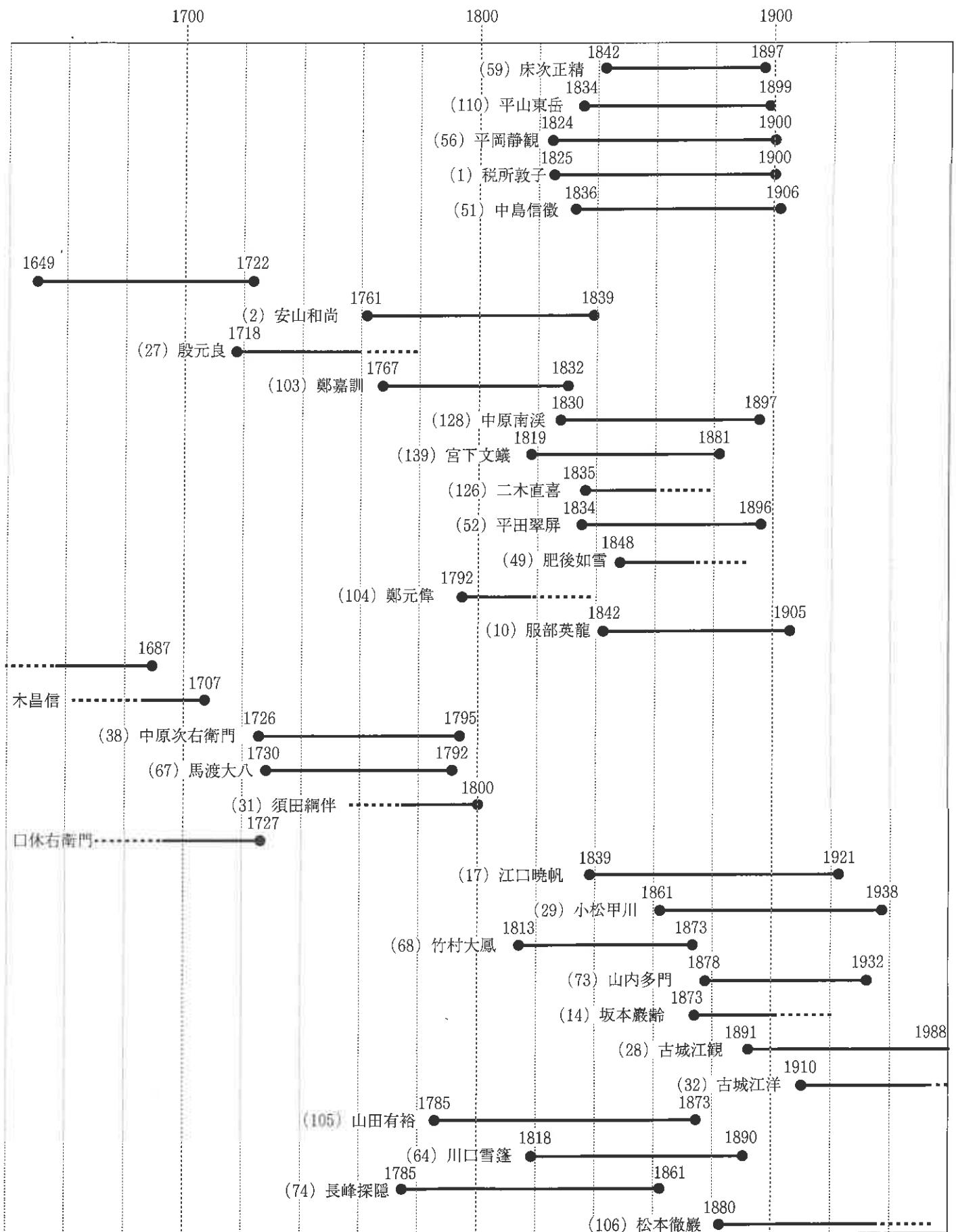
1614 ●

(30) 高天狗

(154) 平野友将

(144) 八

(16) 江



雅号検索

番号	雅号
あ 14	愛春
い 128	愛松廬
い 70	惟恭
い 3	伊歳
い 30	倚山
い 3	伊春
い 4	一観
い 171	一松斎
い 5	一清
う 6	芸谷
う 135	雲蘿
え 8	栄雲
え 7	永雲
え 39	栄翁
え 8	栄春
え 9	英昌
え 10	英龍
え 11	淵溪
お 168	桜州
お 135	黄裳
お 83	黄瑞居士
か 20	開雲館主人
か 92	贖翁
か 5	懷徳庵
か 130	可因
か 54	夏陰
か 8	鶴峯舎典孝
か 95	荷舟(俳号)
か 12	可竹
か 145	嘉然
か 24	貫魚
か 18	観耕堂
か 137	玩固道人
か 62	寒松軒
か 13	寒泉
か 53	観霊
か 14	巖齡
き 135	喟翁
き 15	毅斎
き 107	毅斎
き 92	九壘亭
き 72	暁雲子
き 83	暁山
き 17	暁帆
き 17	暁畔
き 18	行廉
き 62	玉巖
き 19	玉翠

番号	雅号
け 167	玉川
け 20	玉峯
け 3	吟雪斎
け 18	景洲
け 38	桂洲
け 46	恵川叟
け 21	慶竺
け 21	慶竹
け 18	玄香堂
け 24	玄珠
け 51	玄春
け 25	元章
け 25	元霄
け 26	玄心
け 83	黔廬木邨々子
け 64	香雲
け 28	江観
け 29	甲川
け 126	馨徳堂翠山
け 35	耕伯
け 32	江洋
け 135	鼓川
け 33	呉東
け 34	五楽陳人
け 34	西海
け 34	西海漁史
け 18	細香廬
け 83	細簞廬
け 135	在中
け 49	左右斎
け 83	三晔庵
け 58	三国筆海棠
け 36	三山
け 37	三桐
け 83	時員
け 122	自閑斎
け 40	周賀
け 67	集義斎
け 41	秋月
け 70	秋扇
け 42	周林
け 115	十輪(福)坊等見
け 44	常以
け 45	松陰
け 90	松雲子
け 46	常僖
け 47	常慶
け 92	紹軒

番号	雅号
78	定山
47	常治
85	松石子
46	常雪
4	浄雪軒一観
160	松雪斎
5	浄川軒一清
4	松泉軒成清
14	松竹軒巖齡
48	松涛軒
51	常盤山人
92	曙山
49	如雪
5	心斎
51	信徴
19	翠庵
158	醉蝶斎
52	翠屏
64	醉眠
83	静隠
55	静雲
56	静観
161	清閑斎
83	清山古人
58	正心
58	正真
5	静得
60	晴文
61	石屋
136	石谷道人
128	石峯軒
62	雪観
63	石溪
51	雪谿
133	石虎叟
83	啜茶翁
104	善橋
110	千穂
18	桑蔭
128	蒼溪斎
155	桑山子
137	双松
137	大簡
147	大観自在無人相菩薩
103	泰橋
123	大進法橋谷山洞龍美清
83	大貳法橋
67	大八

番号	雅号
68	大鳳 <small>たいほう</small>
69	澤水 <small>たくすい</small>
171	拓梁齋 <small>たくりょうさい</small>
155	為廣 <small>なめひろ</small>
73	多門 <small>たもん</small>
74	探隱 <small>たんいん</small>
75	探隱 <small>たんいん</small>
76	探英 <small>たんえい</small>
77	探溪 <small>たんけい</small>
85	探溪 <small>たんけい</small>
78	探月 <small>たんげつ</small>
79	探月 <small>たんげつ</small>
80	探謙 <small>たんけん</small>
81	探賢 <small>たんけん</small>
82	湛賢 <small>たんけん</small>
83	探元 <small>たんげん</small>
83	探元齋 <small>たんげんさい</small>
84	探澹 <small>たんたん</small>
85	探定 <small>たんじょう</small>
86	探淨 <small>たんじょう</small>
87	探翠 <small>たんすい</small>
88	探瑞 <small>たんずい</small>
89	探成 <small>たんせい</small>
90	探達 <small>たんたつ</small>
91	探竺 <small>たんちく</small>
85	探陽 <small>たんやう</small>
123	探榮 <small>たんらう</small>
92	探龍 <small>たんりゅう</small>
92	探龍齋 <small>たんりゅうさい</small> 守成 <small>しゅせい</small>
13	竹裕 <small>ちくゆう</small>
94	中齋 <small>ちゅうさい</small>
95	椿齋 <small>ちんさい</small>
104	通徳堂 <small>つうとくどう</small>
99	常興 <small>じょうきょう</small>
100	常親 <small>じょうしん</small>
101	常房 <small>じょうぼう</small>
102	常之 <small>じょうの</small>
105	鼎齋 <small>ていさい</small>
24	定視 <small>じょうし</small>
106	徹巖 <small>てつがん</small>
107	天雨 <small>てんう</small>
74	等隱 <small>とういん</small>
108	東園 <small>とうえん</small>
109	等海 <small>とうかい</small>
110	東岳 <small>とうがく</small>
41	等觀 <small>とうくわん</small>
111	東溪 <small>とうけい</small>
112	等藝 <small>とうげい</small>

番号	雅号
113	等月 <small>とうげつ</small>
114	洞月 <small>どうげつ</small>
114	洞月美賢 <small>どうげつびけん</small>
115	等見 <small>とうけん</small>
125	桃岡 <small>とうこう</small>
116	等薩 <small>とうさつ</small>
117	等秀 <small>とうしゅう</small>
62	等舟 <small>とうしゅう</small>
118	等碩 <small>とうせき</small>
119	等雪 <small>とうせつ</small>
120	等雪 <small>とうせつ</small>
62	等鉄 <small>とうてつ</small>
121	等坡 <small>とうは</small>
122	等甫 <small>とうほ</small>
55	洞陽 <small>どうやう</small>
123	洞龍 <small>どうりゅう</small>
124	等林 <small>とうりん</small>
92	得雲齋 <small>とくうんさい</small>
83	斗山玄風 <small>とうしんげんふう</small>
73	都州 <small>としゅう</small>
41	渡唐秋月 <small>とどうしゅうげつ</small>
128	南溪 <small>なんけい</small>
151	南兼明 <small>なんけんめい</small>
39	南山 <small>なんざん</small>
66	南坡 <small>なんは</small>
129	南鳳 <small>なんほう</small>
124	入道等林 <small>にゅうどうとうりん</small>
131	梅隱 <small>ばいいん</small>
132	梅雪 <small>ばいせつ</small>
92	梅林堂 <small>ばいりんどう</small>
128	把霞堂 <small>ばかきどう</small>
133	伯榮 <small>はくえい</small>
51	白圭 <small>はくけい</small>
134	伯親 <small>はくしん</small>
131	白眉道人 <small>はくびどうじん</small>
116	波月 <small>はげつ</small>
116	波月等薩 <small>はげつとうさつ</small>
54	馬純明 <small>ばじゆんめい</small>
59	把翠軒 <small>ばすいけん</small>
135	白鶴 <small>はくかく</small>
95	蟠雲齋 <small>ばんうんさい</small>
127	盤山 <small>ばんざん</small>
139	文蟻 <small>ぶんぎ</small>
140	文叢 <small>ぶんそう</small>
141	文豹 <small>ぶんひょう</small>
74	碧水 <small>へきすい</small>
5	烹雪庵 <small>ほうせつあん</small>
142	朴榮 <small>はくえい</small>

番号	雅号
143	卜齋 <small>はくさい</small>
40	甫川 <small>ほせん</small>
30	渤海 <small>ほっかい</small>
103	松崎山人 <small>まつざきさんじん</small>
137	無志翁 <small>むしおう</small>
94	明允 <small>めいいん</small>
5	默觀 <small>もくくわん</small>
150	元春 <small>もとばる</small>
83	守廣 <small>もりひろ</small>
79	守保 <small>もりやす</small>
85	守行 <small>もりゆき</small>
9	野舟 <small>やしゅう</small>
153	祐以 <small>ゆうい</small>
12	幽谷 <small>ゆうこく</small>
155	友雪 <small>ゆうせつ</small>
156	養圓 <small>ようえん</small>
157	楊月 <small>ようげつ</small>
158	養建 <small>ようけん</small>
159	養元 <small>ようげん</small>
161	養浩 <small>ようこう</small>
73	谷谷 <small>やうこく</small>
160	養山 <small>ようざん</small>
161	養淳 <small>ようじゆん</small>
162	養定 <small>ようじょう</small>
162	養定齋 <small>ようじょうさい</small>
163	養真 <small>ようしん</small>
156	養道 <small>ようどう</small>
164	養伯 <small>ようはく</small>
165	養龍 <small>ようりゅう</small>
166	義貞 <small>ぎせいの</small>
167	來鳳 <small>らいほう</small>
168	蘿山 <small>らざん</small>
169	蘭齋 <small>らんさい</small>
95	李村 <small>りそん</small>
83	李膽 <small>りたん</small>
167	柳温 <small>りゅうおん</small>
170	龍瑞 <small>りゅうずい</small>
171	龍雪 <small>りゅうせつ</small>
60	綠濃音 <small>りよくのうしや</small>
127	麟州 <small>りんしゅう</small>
83	麟照 <small>りんしょう</small>
159	麟朝 <small>りんちよう</small>
18	老筍翁 <small>らうしゆんおう</small>
150	六吉元春 <small>むつきちもとばる</small>
157	和玉 <small>わぎよく</small>

ち
つ
て
と

な
には
ふ
へ
ほ

ま
む
め
も
や
ゆ
よ
ら
り
ろ
わ

以上、掲載したデータベースは、比較的古い書画人が中心であるが、黎明館が所有する日本画作品の中に次のような作家の作品も含まれている。簡単な経歴と作品名をここに追記しておく。

番号	名	生年	西暦	歿没年	西暦	略歴	作品
1	かわもと きざん 河本其山	明治8年	1875	昭和32年	1957	京都府城崎出身で、京都絵画専門学校を卒業した。本名武夫。在学中は、山本春挙門下の新鋭で、25歳の頃鹿児島に移住、鹿児島市立女子興業学校や県立工業高校で長く教壇に立ち、美術教育に尽力した。南国美術展などで活躍し、図案や工芸デザインの面でも仕事を残した。また、県立工業高校の徽章をデザインしたこともよく知られている。	「山水図」 「朝鮮風景図」
2	いま いざよひほう 今井玉芳	明治11年	1878			鹿児島に生まれる。本名孝吉。川端玉章、平山東岳に学び、東京に住す。また、『九州絵画大鑑』（昭和3年刊）によれば、四条派の画家として鹿児島市下荒田町に住すとある。	「鍾馗図」
3	まる たぢくとう 丸田竹涛	明治25年	1892	昭和39年	1964	鹿児島市草牟田町に生まれる。本名長造。1906年鹿児島商業学校に入学、1912年卒業。1915年、関西大学英法科に入るが、1917年病気のため中退。同年、京都の水田竹圃に師事し、南画を学ぶ。1919年、日本南画院展、帝国美術展等に出品、書道も学ぶ。1939年、帰郷し母校の商業学校で書道教師となる。1947年、南日本美術展の審査員となり、1961年には南日本文化賞を受賞した。	「雨後山村図」 「昇龍図」 「蓬莱仙境図」
4	まつい れいこう 松井黎光	明治33年	1900	昭和49年	1974	鹿児島県入来町に生まれる。本名貞夫。日本画家になることを志し、1919年日本美術学院日本画科を卒業。その後荒木十畝に師事し、更に勉強を重ねた。1927年に帰郷するまで東京で制作活動を続けていた。しかし、戦争のため1945年帰郷し、以後は鹿児島で作品を発表し、かたわら後進の指導にあたり、鹿児島の日本画の発展に尽力した。	「桜花孔雀図」 「雪景」 「溪澗図」
5	いしはら しげん 石原紫山	明治35年	1902	昭和53年	1978	鹿児島県入来町に生まれる。本名光雄。日本画を志し、京都市立絵画学校を卒業した。のち台湾に渡り、台北帝国大学医学部につとめ、論文掲載用の作図等の仕事のかたわら作品を台湾の美術展に出品した。戦後は鹿児島大学医学部に勤務し、南画院展や地元の南日本美術展に作品を発表した。また、数少ない地元の日本画家として多くの後進を育てた功績は大きい。	「江上夜泊」 「蓬莱島の春」
6	はなむきほうしゅう 花房芳洲	明治35年	1902	昭和50年	1975	都城市庄内町に生まれる。本名は義明。1930年京都市立絵画専門学校卒業。その後鹿児島実業学校、旧制鹿屋中学校、同国分女学校、新制国分高校などに勤務し、1962年に定年退職した。この間、日本画家として活躍し、第1回南日本美術展で知事賞を受賞、招待作家、審査員もつとめる。	「月夜」 「菖蒲」 「夕映」

参考文献

人物伝備考付録：新薩藩叢書（三）、歴史図書社（昭和46年）

称名墓志：新薩藩叢書（三）、歴史図書社（昭和46年）

称名墓志備考：新薩藩叢書（三）、歴史図書社（昭和46年）

薩州画人傳（手記）：加藤雄吉纂、東京大学史料編纂所蔵（大正9年6月。島津家編纂所図書）

薩藩畫人伝備考（手記）：井上良吉編（大正4年、鹿児島県立図書館蔵）

かごしま一美の先人たち・薩摩画壇四百年の流れ：鹿児島市立美術館（平成8年）

薩摩書人伝稿：渡辺正（昭和61年、鹿児島県立錦江湾高等学校紀要 第10巻）

最後に、完成したデータベースを見直してみると、まだまだ空白の欄が多い。今後さらなる調査、研究を積み重ねこの空欄を埋める努力が必要であると痛感する次第である。